市史講座第 4 回ミニレポート

10 月 29 日（土） 第 4 回 「中世水運と松江―城下町形成の前史を探る―」（講師：島根大学教育学部　長谷川博史先生）が開かれました。

長谷川先生は、松江の城下町形成以前の様子について「水運」をキーワードに解説され、出雲府中に近い八幡津・馬潟の港の重要性を指摘されました。

中世の白潟・末次の様子については、松江における寺院の創建伝承により 14 世紀から 15 世紀に町場の形成がなされたこと。港と水運の発達により 16 世紀には、山陰地方の港が国際的に知られる条件となったと述べておられます。

そして戦国時代には、攻防戦の舞台が、八幡津・馬潟から白潟・末次へ移動したことを指摘されました。堀尾氏が、白潟・末次を囲い込む形で松江の城下町を作ったことを 16 世紀半ばにおける水運・海上交通の変化を承けた結果ではないかと結論されました。